

弘前大学深浦エコサテライトキャンパス特別公開講座を実施して

弘前大学社会連携部社会連携課 係員 花田昌吾

二〇一九年二月一三日、深浦円覚寺において、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス特別公開講座を実施した。本公開講座は、大同二年（八〇七）に坂上田村麿が建立したと伝えられる円覚寺の古典籍調査で発見された資料を活用し、青森県立木造高校深浦校舎の高校生や一般市民を対象に地域の歴史や文化について学び、地域の文化資源の活用について考察を行うことで課題解決能力を高めることを目的に開催した。

当日は、深浦町教育委員会のアテンドにより青森県立木造高校深浦校舎一年生の生徒十六名に加え、深浦町民らと合わせて約三十五名が参加した。会場は通常のホールや会議室等ではなく、春光山円覚寺の堂内において、机と座布団での「寺子屋」スタイルで行った。高校生にとつて昔ながらのスタイルでの講座となり、とても良い体験になったと感じた。

公開講座では、はじめに、弘前大学人文社会科学部 渡辺麻里子教授より、「深浦の歴史や文化を学ぼうー深浦円覚寺所蔵古典籍と文化資源の活用ー」と題して、深浦町はかつて北前船の港であり様々な人が訪れたこと、これにより貴重な書物や物品などが日本各地から持ち込まれたこと、そしてそれらが円覚寺に保管されていたことについて説明がなされた。

続いて、円覚寺海浦由羽子責任役員が、円覚寺の歴史や貴重な文化財を流暢なガイドのもと案内された。とても解りやすく丁寧なガイドによって、私も含め高校生にもとても解りやすく、「円覚寺」の歴史を

十二分に堪能することができた。特に、北前船の船員達のマゲが奉納されているのには歴史とロマンを感じる一面であった。その後、高校生や一般市民が円覚寺所蔵の古い書物に直接触れ、和装本と洋装本の違いや持ち方・さわり方について学んだ。

弘前大学社会連携部の職員として、これまで、深浦町民を対象として大学レベルの講義や深浦町の魅力や地域課題についての「公開講座」に加え、本学教員・学生が地域と協働する「滞在型学習支援プログラム事業」等を実施してきた。その中でも本公開講座は、高校生をメインの対象とし、座学だけではなく貴重な文化財に見て触れることが出来ることが非常に特徴的である。さらに、講義を聞いて終わりではなく、参加者には実際に文化財調査に参加してもらうための仕掛けをしておき、調査を通じて自らも学ぶことで、深浦町の素晴らしさを多くの人に紹介出来るようになると思っている。

最後に、この取り組みは継続することで真価を發揮すると感じた。今後も、地元高校生へ身近にあるのが当たり前のように感じている「円覚寺」を学びの場とし、公開講座を通じて改めて地元の歴史を再確認し、郷土愛を育んでもらい、これを各方面に伝えることが出来れば深浦町の活性化に繋がるのではないかと期待している。